

▼ミルリーラ注射液 [注]

【重要度】★★★ 【一般製剤名】ミルリノン mirinone 【分類】急性心不全治療剤

【単位】▼K注射液 22.5mg/バッグ (1 バッグ 150mL) ▼10mg/A [10mL]

【常用量】50 μ g/kg を 10 分かけて静注後、0.5 μ g/kg/分で点滴 [0.25~0.75 μ g/kg/分の範囲で増減] 点滴静注から開始しても可。

【用法】静注または点滴静注 [48hr を超えて投与するときは慎重投与 (1)]

【透析患者への投与方法】0.25 μ g/kg/min から開始するなど少量より投与を開始する (1)

【その他の報告】AUC が増大するため要注意 [心室性頻拍のリスクになる可能性] (Cox ZL, et al: J Cardiovasc Pharmacol Ther 18: 433-8, 2013 PMID:23695773)
データなし (3,17)

【PD】データなし (17)

【CRRT】0.2~0.25 μ g/kg/min (17) 6名において半減期が20.1±3.3hrに延長しており, VTやVfにより死亡の転帰 (Taniguchi T, et al: Intensive Care Med 26: 1089-93, 2000 PMID: 11030165)

【保存期 CKD 患者への投与方法】腎排世型薬物であるが急性期治療薬であるため少量より投与を開始し血行動態などの慎重に観察する (1,5)

【その他の報告】消失が遅延しているため減量すべき (Larsson R, et al: Eur J Clin Pharmacol 29: 549-53, 1986 PMID: 3956560)

GFR>50mL/min : 減量の必要なし, GFR10~50mL/min : 常用量, GFR<10mL/min : 常用量の 50~75%に減量 (3,12)

慎重投与 (観察しながら点滴静注は0.25 μ g/kg/min から開始) (京)

GFR 31~50mL/min : 維持量は常用量の下限, GFR 10~30mL/min : 維持量を常用量の 2/3 に減量 (17)

腎機能低下により AUC は増大する (Cox ZL, et al: J Cardiovasc Pharmacol Ther 18: 433-8, 2013 PMID:23695773)

腎機能障害患者において C_{ss} 300~350ng/mL に用量を設定すると安全であった (Woolfrey SG, et al: J Pharm Pharmacol 47: 651-5, 1995 PMID: 8583366)

【特徴】他剤無効の急性心不全に適用。β受容体を介さずに PDEIII を選択的に阻害することにより強心作用と血管拡張作用を発揮する。

【主な副作用・毒性】心室頻拍 (torsades de pointes を含む)、心室細動、血圧低下、腎機能悪化など

【F】経口投与時 : 92%、心不全時には 76%に低下 (11)

【代謝】代謝されにくい、グルクロン酸抱合される (1) わずかにグルクロン酸抱合、酸化により代謝される。代謝物に活性はない。腸肝循環を受けない (11)

【排泄】尿中未変化体排泄率は 93.3~98.2% [24hr まで] (1) 80~85% (11,12) グルクロン酸抱合体の排泄率は 3.0~4.7% (1)

【CL】111~178mL/min (急性心不全患者) (1) 25.9±5.7L/hr (健康人)、心不全患者では主として糸球体ろ過の低下により 1/3 に低下する (11) 26L/hr (Stroshane RM, et al: J Pharm Sci 73: 1438-41, 1984 PMID: 6502494) 【腎 CL】21~24L/hr (11) 腎クリアランスが GFR より大きく尿細管分泌が示唆 (11,12) 21L/hr (Stroshane RM, et al: J Pharm Sci 73: 1438-41, 1984 PMID: 6502494)

【t_{1/2}】二相性に消失し α相の半減期 3.5~7.8 分, β相の半減期 64.8~179.0 分 (1) α相 5min (11) C_{cr} の低下により延長 (11) 肝障害の影響を受けない (11) 1hr (12) 【腎不全患者の t_{1/2}】C_{cr} 32~63mL/min : 1.8hr, C_{cr} 9~29mL/min : 3.2hr (11) 1.5~3hr (12)

【蛋白結合率】76.7~95.8% (1) 70% (11)

【V_d】12.4~16.7L/man [急性心不全時] (1) 0.32L/kg (11) 心不全時 0.47~0.56L/kg と増大 (11) 0.25~0.35L/kg (12)

【MW】211.22

【透析性】蛋白結合率が高いため透析性は高くないと思われる (5)

【TDM のポイント】TDM の対象にならない。有効濃度は 100~200ng/mL と考えられている (1) が、血中濃度をモニターする意義は小さい (5) 【O/W 係数】LogP=0.068 [1-オクタノール水系] (1)

【備考】基本的に混注不可 (1)

【更新日】20200516

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。